



地区ガバナーあいさつ ■



国際ロータリー 第 2580地区
2021-22年度 ガバナー 若林 英博

国際ロータリー会長 シェカール・メータ 氏のテーマは「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするため」です。講演の中で、「ロータリーが私の心に火をつけました。自分の身の回りを超えたところに目を向け、人類全体を考えるようになりました」とメータ氏は強調しています。さらに「2022年7月1日までに全世界の会員数を130万人に増やすことを目指そう」と呼び掛け、Each One, Bring One(みんなが一人を入会させよう)とおっしゃっています。ロータリーの戦略計画(ビジョン声明や優先事項)に則ったテーマだと思います。

詳しくは、国際ロータリーのウェブサイトの記事や動画がございますのでご覧ください。

2021-22年度の当地区の大きな目標と5項目を掲げております。

「世界で、日本で、地域で、良いことをしよう」

1. 新型コロナウイルスで困っている人々を支援しよう
2. ポリオ根絶に向けて頑張ろう
3. 元気なクラブになろう
4. 会員増強・クラブ拡大をする覚悟をもとう
5. ロータリーの公共イメージをアップさせよう

ロータリー財団にはポリオ・プラス基金という、ポリオ根絶活動を支援するための専用の基金がございます。その基金への寄付目標額を、一人当たり30ドルから80ドルに変更をしていただきたくお願い申し上げます。ポリオ根絶に向けて、ロータリー財団はビル・ゲイツの財団とパートナーシップを結んでいます。皆さんの拠出額の2倍を、ビル・ゲイツの財団が上乘せしてくれます。上乘せ分を含めれば、一人30ドル(上乘せを含めると90ドル)の目標を、80ドルに変更いただくことで最終的には240ドルの支援になるということです。

元気なクラブというのは、具体的には、例会や親睦活動を会員が楽しんでいる、友人が増えた、みんなの知識レベルやロータリーの理解が上がっている、世界で良いことをしているという喜びを実感している、新会員を迎えている、退会者が出ない、沢山の同好会がある、他のクラブとも交流があるというようなクラブ、だと理解しています。

会員増強は「人の魅力」と「奉仕活動の魅力」の両面からと考えています。魅力的な人は、新会員を呼ぶことができます。この魅力とは正しく職業奉仕の理念、4つのテストを、企業経営に活かれているかです。

公共イメージの向上は、ウェブサイトの改善やSNSの活用を通して発信力を高め、世間によりロータリーを認知いただくことが必要です。日本人は陰徳を重んじますが、ロータリーは世界で良いことをしているので、そのことを発信していただきたいのです。

前年の活動を検証してみましょう。

何事も時間が無いと安直な前年踏襲に陥りがちです。もう一度、メンバーが楽しんでいるか、クラブが元気と言えるかどうかを検証してみましょう。クラブ単独では解決が難しい事柄や、様々な情報を望んでいるでしたら、地区チームがお手伝いをいたします。具体性を持った活発なロータリー活動の骨格が決まるなら大成功です。どうか検討してください。そして熱くリーダーシップを発揮してください。

熱意は伝播し人を動かします。

皆様のひたむきな姿勢と熱意が、クラブの更なる活性化と「世界で、日本で、地域で良いことをしよう」という大きな目標を実践することにより、ロータリーの公共イメージを向上させ、結果的に会員増強に繋がるものと確信しています。皆様がクラブリーダーとして活躍されますように、私も精一杯頑張ってお参ります。共により良いロータリーライフを送りましょう。